

2025年9月7日（日） 9:55より13:30まで

一般社団法人 青森県歯科技工士会



歯科技工士生涯研修

基本研修課程 5 単位

摂食嚥下リハビリテーション日技指定研修会 第1部

『摂食嚥下リハビリテーションの基本と実際』

～講師 石井美紀 先生～

東京科学大学摂食嚥下リハビリテーション学分野



【略歴】 歯科医師

2017年 東京医科歯科大学歯学部歯学科 卒業

2022年 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科
摂食嚥下リハビリテーション学分野 修了

2022年 東京医科歯科大学歯学部附属病院
摂食嚥下リハビリテーション外来 医員

2023年 厚生労働省 保険局医療課 歯科医療専門官

2023年 厚生労働省 医政局歯科保健課 課長補佐

2023年 厚生労働省 関東信越厚生局 健康福祉部医事課 臨床研修審査官

2025年 東京科学大学病院 摂食嚥下リハビリテーション科 特任助教(現職)

【所属学会・資格】

日本老年歯科医学会（認定医）

日本摂食嚥下リハビリテーション学会（認定士）

日本栄養治療学会（JSPEN）

日本障害者歯科学会



摂食嚥下リハビリテーション日技指定研修会 第2部

『摂食嚥下リハビリテーションに使用する
口腔内装置の必要性と製作方法について』

～講師 西川圭吾 先生～

（有）テクニカル アンドアート サプライ

【略歴】 歯科技工士

1990 北海道歯科技術専門学校卒業

1990～1998 歯科医院3件、技工所3件勤務

1999 北海道大学歯学部附属病院歯科技工部
（現、北海道大医学病院生体技工部）入職

2021 北海道大学歯学部附属病院歯科技工部
（現、北海道大医学病院生体技工部）退職

2021～2023 （株）ボニータデンタルアート（北海道札幌市）

2023～（有）テクニカル アンドアート サプライ（北海道中標津町）

【所属学会・資格】

（公社）日本歯科技工士会（日技認定講師）

（一社）日本歯科技工学会（専門歯科技工士）

（一社）日本顎顔面補綴学会（認定技工士）

日本口腔顎顔面技工学会

時間配分予定

会場受付開始 9:00～

09:55 司会・開始

10:00～10:10 開会式

10:10～12:15 講演 石井美紀 先生

12:15～12:30 休憩

12:30～13:10 講演 西川圭吾 先生

13:10～13:30 質疑応答

13:30 閉会の辞

ZoomによるWeb配信もあり

Zoom申込方法 前日までに

o-takashi@pat.hi-ho.ne.jp（長内）

にMailして下さい。

ログイン情報をお伝えします。

歯科技工士
生涯研修
基本課程
5 単位認定

JAPAN DENTAL
TECHNOLOGISTS
ASSOCIATION

LIFELONG TRAINING
REGISTERED
No.100-10201

参加会費無料
無料駐車場 有り

青森県総合社会教育
センター
2F 第8研修室

2025年度 4月1日～12月31日 全国4ヶ所限定開催

福井県・群馬県・青森県・福岡県

摂食嚥下リハビリテーションの基本と実際

人は口から食事ができなくなると、鼻からの管、点滴や胃に直接注入すること（胃ろう）で栄養をとる。これがいかに患者の生活の質（QOL）を低下させるかは想像に難くない。しかし、胃ろう管理だったとしても、口から全く食べられないという患者は、ごく少数に限られる。ほんの一口のご馳走が、患者の人生を大きく変えうる。摂食嚥下リハビリテーションで、患者は一度失った経口摂取を再び取り戻すことができる。口腔内装置の数々はリハビリテーションアウトカムを改善させる重要な要素であり、歯科技工士もリハビリテーションを担う一員である。

摂食嚥下は、先行期、準備期、口腔期、咽頭期、食道期という5期モデルで説明され、歯科技工士の貢献は、主に食塊形成、食塊の咽頭への送り込みを担う準備期と口腔期への対応である。舌接触補助床（PAP）は、口蓋部を厚くした有床装置であり、舌癌術後など器質的問題だけでなく、脳卒中、神経変性疾患などで低下した舌機能も代償する。歯科技工士も患者の食を通じてQOL向上に大きく寄与できるものの、PAPを製作した経験がある歯科技工士は決して多くない。

歯科補綴装置は、口腔機能改善だけではなく、咽頭の形態や機能にも影響する。義歯は食物残留を減少し、閉塞性睡眠時無呼吸に対する口腔内装置は咽頭腔を拡大させ、睡眠時の呼吸を補助する。おそらく、歯科技工士が想像しているよりもはるかに口腔からのアプローチは人々の生活を変えられる。本講演が、歯科が患者の生活に与える影響の大きさを知るとともに、歯科技工士が提供できる価値を改めて考えるきっかけになれば幸いである。

摂食嚥下リハビリテーションに使用する口腔内装置の必要性和製作方法について

厚生労働省による歯科治療の需要の将来予想では、これまでの歯科ではう蝕などによる治療中心型でしたが、超高齢社会のなかで高齢者のなかには全身的な疾患や在宅診療への対応が求められると予測されており、口腔の機能の維持・回復を中心とした「治療・管理・連携型」への需要が増加してくることが報告されております。そのなかでも歯科では、咀嚼はもとより口腔ケアやリハビリテーションなどに期待されています。

歯科技工士が参加することが出来るのは、咀嚼に関わる歯冠補綴装置の製作はもとより、嚥下における機能維持や機能回復に効果がある「摂食嚥下リハビリテーション」に使用される口腔内装置の製作です。

歯科技工士養成機関の基本的な教育において、歯冠補綴装置に関する内容は教育されていますが、「摂食嚥下リハビリテーション」に使用される口腔内装置に関しての教育はほとんどされていないのが現状です。

今回、実臨床でも製作する機会の多い舌接触補助床（Palatal Augmentation Prosthesis / PAP）の製作方法について解説させていただきます。